

巻頭言

「自らの人生を舵取りする力」を育む教育の創造
釧路市教育委員会 学校教育部長 澤口 理絵

労働市場の流動化や就業期間の長期化、マルチステージの人生モデルへの転換が進む現代社会において、これからの担う子供たちには、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠となりつつあります。また、内なる国際化で人口の多様性が増すとともに、SNSや生成AIの負の側面の影響もあり社会分断の可能性等も指摘されています。こうしたデジタル時代において、主体的に社会参画する「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成は、喫緊の課題であります。

このような状況下、釧路教育研究センターでは、釧路市における教育目標の実現と教育推進の重点課題に対応するため、3つの研究グループが、今日的な教育課題に関する実践的な調査・研究を推進しています。

学習指導・開発研究グループは、「釧路市標準学力検査の分析結果を基に、小中連携の視点を取り入れた小・中学校の授業公開と研究協議を通して、小中連携における授業の在り方について研究し、その成果を発信する」ことを目的として研究を進めています。具体的には、「国語科および算数・数学科授業づくりリーフレット」の作成、「釧路教育研究センター研修講座「9年間の学びの連続性に向けた国語科教育および算数・数学科教育の充実」での授業提案」等の活動に取り組みました。特に、研修講座につきましては、小・中学校において系統的に授業づくりに取り組む方策が広く共有され、今後の教育活動の指針となるものです。

子ども支援研究グループでは、「釧路市内各小・中学校における子ども支援に関する課題を踏まえ不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について調査、研究し、子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的に研究を推進しております。「発達支持的生徒指導」をテーマに、子供一人一人の発達段階や特性に応じた支援を進める上での具体的な手立てを提供するリーフレットを作成しました。その成果は、子供たち一人一人の社会的自己実現を支えるものとなるはずで

郷土読本・地域学習研究グループでは、「ふるさとキャリア教育の推進」と「郷土読本「くしろ」の内容の編集・改訂」を中心に活動を進めています。ふるさとキャリア教育の研究では、中学校の総合的な学習の時間を研修講座において公開されました。「ふるさと釧路を愛し、活力あるまちに奉仕する人づくり」という釧路市の教育目標の達成に大きく貢献し、今後の釧路のふるさとキャリア教育をより一層充実させる試金石となりました。郷土読本「くしろ」は、授業で活用しやすいよう、内容の改訂、資料の更新とデジタルデータ化などの充実を図っていただきました。これらの取組により、釧路市全体のふるさとキャリア教育が一層充実したと感じております。

今後も釧路教育研究センターの研究が、市内各校の教育研究と実践に影響を与え、子供の資質・能力の育成を促進するとともに、教育課題の解決につながっていくものと期待しています。

各研究グループの今年度の活動報告

【学習指導・開発研究グループ】

今年度、学習指導・開発研究グループでは、「9年間の学びの連続性に向けた国語科、算数・数学科教育の充実」と、「子供が主体的に学習を進めるための学習計画表の作成」を目的に研究活動を進めて参りました。推進にあたっては、全国学力・学習状況調査や釧路市標準学力検査（CRT）の結果をもとに、以下3点の活動を行いました。

1つ目は、釧路教育研究センター研修講座「9年間の学びの連続性に向けた国語科、算数・数学科教育の充実」における2つの授業提案です。どちらの研修講座においても、釧路市標準学力検査で明らかになった課題の克服を目指し、小中連携の視点をもった授業づくりを通して、9年間の学びの連続性を意識した授業の在り方について提案しました。研究協議では、参加していただいた先生方からそれぞれの授業や校種間連携・協働の在り方について、多くのご意見をいただきました。国語の研修講座では大妻女子大学の樺山敏郎教授、算数・数学科の研修講座では北海道教育大学釧路校の早勢裕明教授から、子供が学ぶことの意義を感じられる授業づくりについてご助言をいただきました。

2つ目は、昨年度から数えて3回目となる「算数・数学科授業づくりリーフレット」の作成と、今年度新たに加わった「国語科授業づくりリーフレット」の作成です。算数・数学科では小学4年生の「計算のきまり」と中学1年生の「文字式」、国語科では「説明的な文章」の学習について、学びの接続を円滑に行うためのポイントを、板書や単元計画、小・中9年間の学習の系統表などを示しながら紹介しました。

3つ目は、「学習計画表の作成」です。子供が自ら目標をもって日々の学習計画を立てるとともに、学びの過程をその都度振り返りながら改善に生かせる内容になるよう留意し、作成しました。

今年度は「9年間の学び」をテーマとした授業づくりやリーフレット、学習計画表を発信させていただきました。先生方には、ぜひご活用いただくとともに、日々の実践の一助になれば幸いです。

学習指導・開発研究グループリーダー 奥山 愉美子（美原中学校）

【研修講座報告】

研修講座名	実施日	場所	受講者
9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科教育の充実	令和7年12月18日(木)	鳥取西小学校 鳥取西中学校	76人
講座の内容			
【授業公開】鳥取西小学校5年 算数科「四角形と三角形の面積」（授業者：工藤 智也 教諭）			
【授業公開】鳥取西中学校2年 数学科「三角形と四角形」（授業者：工藤 拓郎 教諭）			
【説明】「9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科教育の充実」提案			
【協議】公開授業の検討			
成果	課題		
<ul style="list-style-type: none">・子供が自ら考え始めるような課題提示の工夫や、バランスの取れた思考場面（個人思考・集団思考）の設定が行われていた。・教師の細やかなファシリテーションによって子供が自然に発言したり話し合ったりしながら、理解を深めていく姿が多くみられた。・子供同士が学び合える指導過程を重視して小・中学校の授業公開を行ったことで、授業を通してその意義を実感することができた。	<ul style="list-style-type: none">・授業で扱った図形の掲示物について、色分けを工夫したり補助線を入れたりするなど、子供の理解を促す掲示物になっているかの確認を行っておくとよかった。・図形の問題は認知的負荷が高いため、ICTを活用して、図形を動かしたり分解したりするなどの工夫も有効であった。・小学校で根拠をもとに説明する力を身に付け中学校に接続していくことが必要である。		
受講者からのアンケートより			
<ul style="list-style-type: none">・学年間の系統を踏まえ授業をしていましたが、中学校までの過程を意識できていなかったと気付きました。小・中9年間の系統を踏まえ指導することが、学力の保障につながると感じました。・小学校の学習内容を知ること、中学校に入学するまでにどのような指導がなされているか分かり、よかったです。小学校での学習内容を意識して、中学校での指導に生かしていきたいです。			

【子ども支援研究グループ】

子ども支援研究グループは、「釧路市内各小・中学校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について、調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的に研究活動を進めて参りました。文部科学省発行の「生徒指導提要」の内容を踏まえ、令和7年度は研究テーマを「発達支持的生徒指導について」と設定しました。発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、すべての子供を対象に、すべての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。

今年度の研究では、PBS（ポジティブな行動支援：Positive Behavior Support）の考え方を取り入れました。これは、望ましくない行動を罰するのではなく、望ましい行動を意図的に取り上げることで、結果的に望ましくない行動を減らしていくという、生徒指導における取組です。具体的な研究活動として、小中連携を考慮した「行動目標チャート」の作成や、学校全体で円滑に導入を進めるための年間スケジュール例の提案を行いました。これらの成果は、先生方にとって「活用しやすい」「手に取りやすい」ものとなるよう、具体的な働きかけや場面例を掲載した「発達を支える生徒指導リーフレット」として集約し、発行いたします。本研究の成果が、子供たちの自己肯定感を高め、教師との信頼関係を深める一助となり、釧路市内の各校において「全ての教職員で意図的・意識的に取り組むシステム」として役立てていただけることを願っております。

子ども支援研究グループリーダー 齋藤 政人（幣舞中学校）

【郷土読本・地域学習研究グループ】

郷土読本・地域学習研究グループでは、「ふるさと釧路への理解と愛着を基盤としたふるさとキャリア教育の充実を図ること」「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方について研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本「くしろ」の内容の検討を行うこと」を目的に研究活動を進めてきました。今年度は、主に次の2点の活動に取り組みました。

1つ目は、「ふるさとキャリア教育」の実践と発信です。「ふるさと釧路を愛し、将来、地域や社会に奉仕しようとする人づくり」を目指し、中学校第3学年の総合的な学習の時間において「ふるさとキャリア教育」を実践しました。市内の事業所や関係機関、地域で活躍する方々と関わる探究活動を通して、生徒はふるさととのよさや、それを支える人々の思いに触れ、自分の将来の生き方や働き方について考える機会を得ることができました。また、大人の力を借りながら地域のための行動を考える中で、社会に参画する意識や自己有用感を高める姿も見られました。

こうした生徒たちの変容を伴う実践の積み重ねは、地域との連携や探究学習をより充実させるための大きなヒントとなりました。

今後は、本実践での学びを活かし、小・中9年間の系統性をもった、持続可能なふるさとキャリア教育の推進を図っていこうと考えています。そのために学校の教育活動に協力いただける外部講師一覧「コネクト」を活用し、探究的な学びを充実させるように、実践を積み重ねて参ります。

2つ目は、郷土読本「くしろ」の資料の見直しです。例年通り、日々の授業の中で子供たちや教師が目にする資料一つ一つを丁寧に確認し、必要に応じて数値を最新のものに更新したり、新しい情報へ差し替えたりする作業を行いました。授業での活用を想定しながら内容の正確性や分かりやすさを重視し、より実態に即した郷土読本となるよう改善を図りました。ロイロノートの資料箱にも、紙面データや各種資料が収録されています。活用方法についてまとめた動画のQRコードをご参照ください。



資料活用方法動画

本グループでは、次年度も郷土読本の改善とふるさと教育キャリア教育の充実を通して、子供たちがふるさと釧路への理解と愛着を深め、自らの将来を主体的に考える力を育むことができるよう、研究と実践を進めていきます。

郷土読本・地域学習研究グループ委員 秋保 健太（幣舞中学校）

第2回合同研究グループ委員研修会

令和8年2月10日（火）、フィッシャーマンズワフMOO3階ふらっとにて、第2回合同研究グループ委員研修会が行われました。各グループが今年度の活動について紹介し合い、互いの研究内容について理解を深めました。今後は、それぞれのグループで行っている内容を関連付けながら研究内容を広げたり、深めたりすることができるよう、グループ間で連携を図りながら活動していく方向性が共有されました。次年度も、釧路市の先生方の実践に役立てていただけるよう、研究を推進して参ります。



釧路教育研究センター 教育講演会



令和8年2月14日（土）に、コーチャンフォー釧路文化ホール展示ホールにて「教育講演会」が行われました。今年度は、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である長田徹氏をお招きし「ふるさとキャリア教育の推進～地域と未来を拓く人づくり～」という演題で、ご講演いただきました。

今を生きる子供たちの実態についての様々な分析や、ふるさとキャリア教育の実践事例を数多く紹介していただくとともに、「子供たちから生まれる様々な問いにどう答えるかを考える」という対話を軸にした講演が展開されました。会場にいる全員が、「子供たちに、どのようにキャリア形成を図っていくのか」を自分ごととして、真剣に考え、学びとる姿がみられました。

また、長田氏は、先生方が「なぜ学ぶのか、それが将来にどう結びつくのか」を具体的に子供たちに伝えることで、子供たちが自らのキャリア形成をイメージできることが重要だとおっしゃいました。さらに、釧路の子供たちに、「釧路で一生懸命に頑張っている大人」に出会わせることで「自分も釧路に貢献したい」という憧れをもたせることがふるさとキャリア教育には欠かせないという熱いメッセージを伝えてくださいました。始めから終わりまで、参加者の感嘆や笑い声が響き、温かい雰囲気の中、実りの多い時間を過ごすことができました。